

世界中が水と笑顔であふれるように

喜界町立喜界中学校 三年 和田^わ乙^{おと}葉^は

今、この日本では水は当たり前前として飲まれている。私は、先進国である日本に生まれてきたから今まで水に対して、あまり関心をもたなかったのかもしれない。でも、考えてみれば、資源には限りがあるし世界中誰もが水をたっぷり飲めるわけでもない。そこで、私はみんなに知ってもらい、理解してもらいたい。先進国が増え続ける今もなお、地球のどこかで水不足などで苦しむ人たちがいるということ。そして、その人たちを一人でも多く救うために私たちにもできることがあるということ。

令和の時代になった今も続いている水不足について調べてみた。現在、水不足を含む水ストレスの高い国々に二十億人以上の人々が暮らしている。「水ストレス」とは、水の需要に対して供給がひっ迫している状態のことだ。気候変動の影響を受けやすいアフリカな

どでは、水不足が深刻な国や地域も存在する。このような気候の影響に加えて、人口の増加や水質汚染、水資源の減少で世界は水危機に陥っている。とされている。私は、日本だけを考えていたので、こんなにも世界の水状況が深刻だということとは思いつかなかった。そして、遠く離れたアフリカの国々をどうすれば私たちが少しでも手助けできるか興味を持った。

私たちが日本人が、一日あたりに使う水の量は三百リットルを超えるとされている。それに対して、アフリカに住む人たちは五リットルの水を得るために一日八時間かける。しかも、その水は日本と違って、何が入っているか分からないし、泥や土などの汚れも混じったものだ。明らかに日本人がどれだけ裕福な暮らしをしているかが分かる。そこで、先進国に住む私たちができることを考えてみた。

一つは、まず自分たちの国の水を汚さないこと。そのためには、生活排水を少しでも減ら

すことが大切だ。例えば、使えなくなった油をそのまま流さない。洗剤の使用量を守る。お風呂の水は再利用する。など、たくさんできることがある。二つ目は、寄付をかかさず行うこと。私の住む喜界町でも、店の中で募金箱を見かけることが多い。その箱が、発展途上国の救いの手になるのだ。だからこそ、一人一人が意識して募金・寄付をすることが大切なのだ。私は、ある時、募金箱に千円札を入れる人を見たことがある。その時は、驚きが大きかった。だけど、今考えてみるとその人のような心優しい人が少しでも増えたらいいと感じている。私たちが寄付したものは、アフリカなどの国々に送られ、井戸やトイレの設置、水が原因で病気になった人たちのための医療設備など、たくさんの手助けにつながる。だから、私はこれからもっともっと募金に対する意識を高めていきたいと思う。

最後に、先進国は発展途上国に対する思いやりの心をいつまでも持ち続けなければいけ

ない。そして、私たちは一日でも早く多くの
国々が水不足で苦しまないように、募金や寄
付で救いの手をさしのべなければいけない。
世界中が水と笑顔であふれるように。